

JAAC だより

『就職する難しさ』と『仕事を続ける難しさ』

— 就職後3年以内に35%近くが辞めていく —

今年の5月ごろだと記憶していますが、『4月に入社した新卒社員がすでに離職し始めている』という内容の記事を目にしました。いわゆる、五月病というやつでしょうか。離職の理由は、「思っていた仕事と違う」、「人間関係」、「体調不良」、等々、様々です。驚くべきは、初入社から1週間以内に辞めていく新卒社員がいる、ということです。しかも、なかには会社への離職願いを自分の母親が行ったという珍事(?)も含まれています。体調不良等で自ら連絡ができない状況にあるのならばともかく、前日まで普通に出勤していた新入社員が、その翌日には自分の親から会社の上司に離職の連絡をさせるというのは如何なものでしょうか。会社を辞めるということは多くの人の場合、それなりの時間を費やして考え抜き、自らの出处進退を決めるという、いわば人生の岐路でもあります。その報告を第三者に任せるとは合点がいきません。以前から、大学入試に母親が付き添ってくるという一種の社会現象がありますが、離職の際にも会社と本人との間に母親が介在するという現実も一つの社会現象なのではないでしょうか。皆さんはどのように思われますか？

今年の最終的な就職率は90%を上回りましたが、昨年の卒業生で就職浪人を余儀なくされた学生数や、何らかの事情で就職をしなかった学生の数も含めれば、今年の就職志望者における本当の意味での最終的な就職率は65%前後とも言われています。このような厳しい状況のなかで、せつかく掴んだ就職先を、こうも簡単にあきらめてしまうという、今の若者の特性の一面を見たような気がします。本年3月号のJAACだより(2012年2月15日発行)に掲載した『変わりつつある学生の就職意識』の中でもお話ししましたが、どうやら若者たちの間では、仕事に従事することの意味と意識が大きく変わりつつあるようです。一旦、会社を辞めても若いうちなら何とか再就職の道がある、当面はニートでも構わない、社内の人間関係に悩み苦しみながら働くよりも、楽しく働きたい・・・、こうした若者の願望と実際の社会とのギャップがあまりにも大き過ぎるように感じます。簡単に仕事を辞めてしまう若者の考え方や行動を擁護するわけではありませんが、若者をこうした行動に駆り立ててしまう企業と社会のあり方にも問題があるように思われます。

小学校では6年、中学と高校ではそれぞれ3年、4年制大学においては一般的に(大学浪人や留年生の場合を除き)4年の学齢差があります。こうした学齢年齢の差に応じて、日本社会特有の先輩と後輩という人間関係が形成されます。私たちはこうした環境と状況の中で、暗黙の了解とも言えるべき慣習的な人間同士の上下関係を体得し、互いの関係に適切な距離を見出してきました。この学齢差である年齢の開きが、就職と同時にいきなり最大で40年を超えることもあるのです。新入社員が22歳の時、60歳を超える上司が同じ社内にいることも普通と言えば、普通の状況です。小学校から大学を卒業するまでの16年間にわたり、「学校」という名の、ある意味では閉ざされた社会で育ってきた若者が、ある日を境に学齢差40年を超える、今までとは勝手が一変する「学校」に入学したということが、言うなれば就職ということではないのでしょうか。年齢差や人間関係を含め、あまりにも急激な環境の変化についていけない若者たちの多くは、こうした就職後間もなく離職するという行動に走ることも考えられます。このような環境下にある若者たちに対して、何が何でも仕事を続けることが大事・・・というような精神論だけで物事の道理を説いていくことは難しいのではないのでしょうか。

平成22年10月に政府内に設置された緊急雇用対策本部の決定に基づいて、労働・産業、その他各界のリーダーや有識者を集めて内閣総理大臣の主導の下で始められた緊急雇用対策対話を通じて、就職活動のあり方や採用の時期や方法、就職のミスマッチ、企業内の人間関係、離職率の軽減と言った様々な問題と事柄についての意見交換と合意の形成が図られてきました。こうした対話を通して、もっと大所からの視点で若者と社会の関わり方ということについて話し合っていたいただきたいと思います。厳しい就職活動を送る学生と高い離職率に悩む企業、どちらも悩み苦しんでいるのが現在の状況ではないのでしょうか。どちらか一方が変われば問題は解決する、というようなものでは決してないはずですが。時代の移り変わりと共に、社会全体のあり方が変わってきています。社会の変化が急速に進んでいるのであれば、その変化のスピードに合わせて対応策も決めていかなくてはならないはずですが。JAAC生の皆さんには、こうした状況が現在の偽りのない現況であることを認識して、就職活動についてはもちろんのこと、社会に出て仕事をするということはどういうことなのか、そして、就職後の自分自身のあり方についても、是非、熟慮していただきたいと思います。(照井)

また、新たなご遺体が見つかりました！

本紙先月号で、3.11から1年半以上が過ぎた今でも自宅に戻れない行方不明者の方々が大量いらっしゃることをお伝えしました。その後間もなくして、今月はじめに岩手県陸前高田市のがれき置き場で、選別作業中に震災の犠牲者と見られるご遺体が発見されたというニュースが報じられました。まだ、ご記憶に残っている方もいらっしゃることでしょう。どんな形であれ、ご遺体が見つかって『良かったなあ』という想いと、『何故、今まで・・・』という無念の気持ちが私の心に同時に湧き上がり、とても複雑な想いを経験しました。東日本大震災から1年8ヶ月が過ぎた今もなお、行方不明者の方々は2,700人以上もいらっしゃいます。DNA鑑定などを経て、今回見つかったご遺体の身元が一日でも早く確認されて、ご家族の元に帰られることを心からお祈りしております。(照井)

● 米大統領選 - オバマ大統領が再選 ●

先日、次期米大統領選挙の結果、現オバマ大統領の再選が決まりました。日本でも選挙の開票結果がリアルタイムで報道されていましたね。今回の報道ではアメリカの選挙制度が大きく取り上げられたように思います。アメリカの大統領選挙は4年に1度行われます。選挙キャンペーンの報道からも分かるように、アメリカの大統領は間接投票ではあるものの、『米国民一人ひとりが選ぶ』という印象が強いですね。事実、その通りで、日本の首相が、一般国民から遠く離れたところで選ばれる制度とは大きく違います。日本の首相は、その時の政権与党の総裁か党の代表が選ばれますが、アメリカの場合は、二大政党である民主党と共和党から党を代表する候補者1名ずつを選ぶ『予備選挙』が行われます。その後、選出された2名で選挙戦を繰り広げる『本選挙(一般選挙)』が行われるのです。

今、日本では衆議院が解散し、来月には選挙が行われます。この選挙で政権を取った党の代表が日本の首相になります。そう思うと、今回の選挙の一票はとても大きなものに思えますね。新しい政党が乱立(?)しているようにも思える現状では、支持する党を決めることが難しいと思いますが、有権者1人ひとりの責任は重いものになりそうです。選挙権のあるJAAC生の皆さんは、今回の選挙をどう思われていますか。(照井)

ー 技術の進歩が生み出す高齢者の疎外感 ー

このところ相次いで発表される携帯電話は、従来の携帯電話とは目的もその用途も変わってきています。本来、携帯電話は個人用の電話として、外出時でも相手との通話が可能なものでした。しかし、最近ではどこにでも持ち運びができる超小型「携帯パソコン」の様相です。これらの機種を使いこなせる世代の人たちにとってはとても便利なものですが、その反面、これらの機器そのものを使いこなせない世代の人たちにとっては、『また厄介なものが出てきたな』という思いが本音ではないでしょうか。これら次世代型の携帯端末はおろか、パソコン自体の扱いもままならない人たちの多くは高齢者の方々です。一般世帯におけるパソコンの普及率は2009年をピークに徐々に減少傾向にありますが、現在では80%を超えていると言われています。今や、パソコンを使わない日常生活そのものが、少しずつ難しくなっているとも思われます。パソコンや次世代型携帯端末を使いこなせない、又は使えない高齢者の方々は少しずつ現代社会から疎外されてきているように思われます。例えば、航空券や新幹線の予約、ホテルや旅館の予約、芝居のチケットの購入、その他、様々な日常生活で必要なものの購入は、その場に行かなくてもパソコンで用が済むようになっています。パソコンを使いこなせない高齢者の方々は、痛む足腰をかばいながら電車やバスを乗り継いで旅行会社へ行き、1泊2日の温泉旅行の予約をします。パソコンを使う世代は、インターネットを利用して多くの旅行情報を見ながら、家から一步も出ずに、ものの5分で予約を完了してしまいます。身体の動かない者に多くの負担がかかり、健康で若い世代には何の負担もかからない。これって、何となくおかしいと思いませんか。高齢者の多くは何とか社会の変化に追いついていこうとしているでしょう。そうでないと、高齢者の方々はこの社会で生きていけなくなると不安を感じています。『使える人』と『使えない人』との格差が広がっていくように思えてなりません。『勝ち組』や『エリート』、『選ばれた者』などと、勝者を賛美するような多くの記事が氾濫しているようにも見える今日ですが、『敗者』ではなく『弱者』のことをもっと気遣う気持ちが必要なのではないでしょうか。実は、私の両親(父：86歳、母：84歳)も『使えない人』に属する人間たちです。(照井)

【編集後記】もっと早く本紙を作成したかったのですが、小生、ウイルス性腸炎なるものを患ってしまい、本紙の作成が遅れてしまいました。この場をお借りして、本紙作成の遅れのお詫びを申し上げます。立冬を過ぎ、日に日に寒さも厳しくなる時節です。皆様におかれましては、くれぐれも体調を崩さぬようお身体をご自愛くださいませ。(照井)

Let me remind you . . .

★JAAC生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください。

◆JAAC生の皆さんへ： 今年に冬に帰省される皆さんは航空券の購入を既に済ませられましたか。特に、乗継便を利用される方は早めに予約をしてください。また、新年の学校の開講日の確認も必ず行ってください。

■就職活動をするJAAC生の皆さんへ： 希望企業についてよく調べ、海外大学卒業生(見込み者)を対象としたジョブフェア等の情報には必ず目を通すように心がけましょう。就職活動においては、下記までお気軽にご相談ください。

●JAAC本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

JAAC日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp ©カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp